

京都大学教育研究振興財団助成事業
成果報告書

平成27年7月4日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科 文学研究科

職名・学年 教務補佐員

氏名 芳原綾子

助成の種類	平成27年度・若手研究者在外研究支援・国際研究集会発表助成／若手		
研究集会名	第16回国際サンスクリット学会		
発表題目	On the meaning of Amg allina, palina		
開催場所	バンコク Renaissance Bangkok Ratchaprasong Hotel		
渡航期間	平成27年6月27日～平成27年7月3日		
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()		
会計報告	交付を受けた助成金額	150,000円	
	使用した助成金額	150,000円	
	返納すべき助成金額	0円	
	助成金の使途内訳	自宅⇄関空間交通費	5,000円
		関空⇄バンコク間の航空券	67,000円
学会参加費・滞在費		78,000円	
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 支給された中で、内訳を実費にあわせて決められたのが便利でした。学生支援機構への返還が始まって以降に、このような返金しなくてよい援助が受けられると経済的に助かります。ありがとうございました。		

成果の概要/芳原綾子

学会概要

4年に1度開催される国際サンスクリット学会の研究発表は、サンスクリット文献に基づくことを基本としながらも、人文学の全ての分野から社会科学の領域にまで及ぶ多様なものである。16回目の本大会は、インド政府とタイ王室の後援を受けて、バンコクで2015年6月28日から7月2日の期間で開催された。21の部会に分かれて、文献学・碑文学からサンスクリットとITまで、幅広い内容の発表が行われた。インド以外のアジアの国での開催であったためか、全体的に欧米からの発表申込者数がいくらか少なかったようであり、その分、若手研究者に発表の機会が回ってきたという印象を持った。

発表概要

発表者は、「ジャイナ教」の部会で発表した。この部会で発表された研究内容は、ジャイナ教と密接な関係のある初期仏教の経典にみられる用語や説話のモチーフと、ジャイナ聖典で用いられている用語の意味や説話との比較研究、ジャイナ教の論理学、ジャイナ教説話、ジャイナ教写本、ジャイナ教研究史、現在のジャイナ教団についての社会学的な見地からの研究というように、多岐にわたった内容の濃いものであった。他の部会でも、ジャイナ教におけるヨーガ等、ジャイナ教に関連した発表は散見された。

発表者は、サンスクリット文献、パーリ仏典とジャイナ聖典における、 $\bar{a}\sqrt{li}$, $pra\sqrt{li}$, \sqrt{vli} の用例を比較検討して、Ardhamāgadhī (AMg) $allīṇa$ と $palīṇa$ の意味を明らかにしようと試みた。AMg $allīṇa$ の由来するサンスクリット語根には、注釈に見られる \sqrt{li} ‘to cling’ と、Leumann (1883) が示す \sqrt{vli} ‘to crush’ がある。AMg $allīṇa$ と $palīṇa$ は複合語となり、四肢と頭尾を甲羅に収める亀の様子を用いた亀の喩で用いられている (Dasav 8.40)。前分の $allīṇa$ については、今までにもその語形が言及されることはあったが、後分の $plīṇa$ の意味は管見では取り上げられていなかったように思われる。そこで、サンスクリット文献における $pra\sqrt{vli}$, $pra\sqrt{li}$ の用例と、AMg $palei$ ($pra\sqrt{li}$) とその派生語の用例を検討した。そして、AMg $palei$ は、基本的に「くつつく」を意味し、否定辞を伴って肯定的に用いられていることを指摘した。また、肯定文においても、解脱等の好ましい対象に対しては、修行者を主語として $palei$ が用いられる例があることを確認した。以上の用例を検討した結果、AMg $allīṇa$, $palīṇa$ はサンスクリット語根 \sqrt{li} に由来する可能性が高く、両語とも基本的には「くつつく」を意味するという結論に至った。

両語から成る複合語が用いられている亀の喩は、 $paḍisaṃlīnatā$ ($pratisam\sqrt{li}$) というジャイナ教の外的な苦行の1つであり、身口意の動きを抑制することを説く一節の中でも引用されている。Pāli 仏典においても、 $patisaṃlīna$ は「引き退く」ことと、それに伴う、「沈黙する、身をかがめる、心身の働きを制御する」ことまでの、広がりのある意味を表す用例が見られる。ジャイ

ナ聖典においても、AMg paḍisaṃlīna は、雨期に修行者が一か所に「留まる (くつつく)」という意味で用いられている。以上の用例を検討すると、亀が四肢と頭尾を収縮させて甲羅に収める (くつつく) ように、修行者は、心身の働きを抑制していることを説いていると解釈することが妥当である、という見解を述べた。

質疑応答の時間には、発表者が参照していなかった資料の情報を、R. Wiles 博士から得ることができた。ジャイナ部会での各々の発表については、フルペーパーをまとめた論文集が出版される予定であり、それまでに、知りえた資料の検討を加えて内容を改善する予定である。ジャイナ教に限定した国際学会は、ロンドン大学の SOAS を中心として毎年行われているが、この学会に参加することで、インド学全体の中でのジャイナ教の位置や、他分野の関わりという視点からジャイナ教研究のあり方をみることができたことは有意義であった。